

じゃかご

蛇籠ってなに？ 知って、作って、考える。

“環境・ほっと・カフェ”と題して環境学習指導者のスキルアップや交流を目的とした講座を開催します。今年のテーマは“蛇籠”です。企画展示「川を描く、川をつくる」についてより深く学ぶため、展示資料“蛇籠”のミニチュアを実際に作り、自然環境の利用や防災との関わりについて考えます。

対 象：地域の防災・環境学習・環境保全にかかわる活動者や指導者、またはこれから取り組もうとしている方、および小・中・高校教員など（子供同伴不可）。
定員約 20 名（先着順）。

日時・会場：

2025.10.18(土)

13:00 ~ 16:00 (受付開始 12:50~、実習室2にて)

琵琶湖博物館 実習室2、生活実験工房

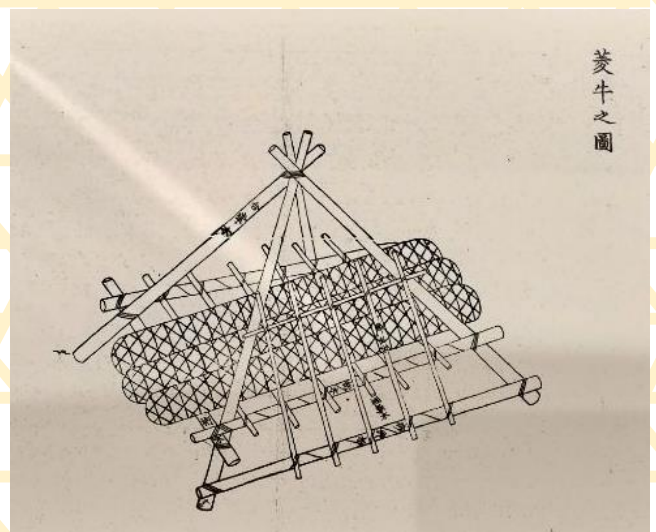
申込み：受付期間 9.18 (木) ~ 10.11 (土) 17:00 まで
しがネット受付 右記 QR コードよりお申込みください。



<https://ttzk.graffer.jp/pref-shiga/smart-apply/apply-procedure-alias/jyakago>



竹蛇籠のミニチュア



『土木工要録（附録）』明治14年（1881）の
「菱牛之図」（国立国会図書館デジタルコレクション）

講師紹介



島本多敬 琵琶湖博物館学芸員 専門分野：歴史学（近世）

企画展示「川を描く、川をつくる—古地図で昔の堤をさぐる—」の担当。日本の地図史と、地図に描かれた過去の河川や村の景観を研究。地図に描かれた蛇籠の多さ、地元の方が語る竹蛇籠の記憶が気になり、その実態を調べはじめる。



辻川智代 琵琶湖博物館特別研究員 専門分野：民俗学

現在は滋賀県長浜市に伝わる小原籠を研究中。竹ではなく木を割ってへぐ技術を練習中。なかなか材料ができないので、編む技術を学ぶため、竹細工を習いはじめたところ、展示の蛇籠を作ることに。



遠藤礼子 小原籠研究会きつつき世話人、のらねこ竹クラブ主宰

2011年から大津市北比良で田舎暮らしをはじめ、近所にたくさん生えている竹を生かしたくて竹細工をはじめ。2020年に木で作る小原籠に出会ってから、木のかごも。今ホットなのは、アパラチアン・エッグ・バスケットと面岸箕(おもぎしみ)。

タイムスケジュール

- | | |
|-------------|--------------------------------|
| 12:50～13:00 | 実習室2にて受付 |
| 13:00～13:50 | 企画展示を使った蛇籠の歴史・文化に関する島本学芸員による講義 |
| 13:50～15:50 | 遠藤礼子氏、辻川智代氏指導による蛇籠編みの実践 |
| 15:50～16:00 | まとめ |



「近江国栗太郡出庭村・中村・辻村大絵図（部分）」（天保11年（1840）、当館蔵）に描かれた蛇籠



滋賀県立
琵琶湖博物館

お問い合わせ：琵琶湖博物館 環境学習・交流係
TEL：077-568-4811（担当 吉田、猪狩）

